

# 習近平は国民の『ガス抜き』に「尖閣諸島戦争」を狙っている。

習近平は《小平氏が敷き、上海閥が継承した「韜光養晦・有所作為」という対外基本路線を全面放棄した》。

もう中国は大国になったのだからやりたいようにふるまう、と宣言したわけだ。

それでも「北朝鮮・アメリカの核廃絶問題」の影に隠れるようにしながら、中国はいよいよ「尖閣諸島上陸作戦」を実行しそうだ。

これから迎える「台風シーズン」に紛れて「武装した偽装漁民」が避難を理由に尖閣に上陸するかもしれない。

2018年7月1日から軍隊に組み入れられた海警局の船が今までの警察のスタンスから軍隊のスタンスに変わる。

装備も軍隊の装備だろうし、日本の海上保安庁は警察で軍ではない。海上自衛隊が「お相手しましょうか」と出ると戦争になる。「中国軍」と「自衛隊」、軍と軍が接触することとなるからだ。

中国海軍の「病院船」が尖閣諸島周辺に表れている。「病院船」をわざわざ尖閣諸島に出したということは「中国海軍に死傷者が多数であることは覚悟の上」という意思表示。

つまり、台風に紛れて偽装した「武装

漁民」を上陸させ、中国の旗を立てる。その映像を世界に流して尖閣諸島は中国のものだと印象付け、「海警局」と「自衛隊」で軽く交戦させ、尖閣を紛争地帯にしよう。海上自衛隊は直ちに尖閣奪回をしないと南シナ海のように面倒なことになるかねない。

確信犯の中国が仕掛けてきたら、日本も毅然と対抗手段をとる。「憲法改正」「憲法違反」など陳腐な憲法論議は関係ない。

侵略されたら、自衛のための闘いをするのが独立国家として当然だ。

戦わずにいると韓国に盗まれ実効支配されている「竹島」の二の舞、三の舞となる。北方領土はどうなったか？

そのうえ今度は「尖閣諸島」もか？

つぎは、「沖縄」も盗られるのか。

尖閣諸島の周りに機雷を撒いて中国に「近づくと危険ですよ」と注意喚起をしましょう。

